



「鹿児島神宮お田植え祭」は1560年(永禄3年)、島津貴久公が遷座祭を行った際に神田を寄進、翌年の神事をきっかけに始められたものと伝わっています。

早男たちは白や青の単衣に白ダスキ、早乙女たちは赤の単衣に赤ダスキで、勇壮であてや

祭りの舞台となる鹿児島神宮は、神武天皇の代の創建ともいわれ、古来大隅国一の宮として栄えた式内社。1756年(宝暦6年)、島津重年公によって再建された権現造りの現社殿は、今もなお荘厳なおもむきを漂わせています。

稲作の技を語り継ぐ、古式ゆかしい斎田祭。

次代に遺したい伝統文化

かごしまの祭り

— 第1回 —



霧島市立隼人歴史民俗資料館 所蔵

● 大正から昭和初期に撮影された写真
450年以上続くこの祭りは、地域の方々により世代を超えて守られてきました。

なタカンバッチョ姿の男女が、田植え唄に合わせて一斉に早苗を植えていきます。

祭りは午前には本殿で本宮祭があり、午後から神宮横の神田で斎田祭が行われ、高提灯を囲んで田植え唄を歌う「トド組」などの郷土芸能も奉納されます。

祭りの伝承と稲作の技を現代に語り継ぐ、ゆかしくも荘厳な伝統儀式です。

鹿児島神宮 お田植え祭

鹿児島に古くから伝わる地域の祭りや伝統行事。今回は霧島市で行われる、「鹿児島神宮お田植え祭」をご紹介します。

【祭りの舞台】

鹿児島神宮

開催日： 旧暦5月5日後の最初の日曜日
※今年6月12日(日)

交通： 日豊本線隼人駅から歩いて約10分
または溝辺鹿児島空港 ICから車で約15分

駐車場： 約350台(無料)

TEL： 0995-42-0020(鹿児島神宮)

